

東京保育問題研究会セミナー

# 子どもの思いの 伝え方・表現とは？

～言葉の可能性、語り合う必要性～

今セミナーでは、ルポライターとして少年犯罪や虐待などを数多く取材・執筆活動をしている石井光太さんをお招きし、言葉や表現がいかに重要なことであるのかなどを考えながら、子どもと関わる私たちに今求められているものは何かなど、様々な視点から学び、語り合っていきたいと思います。

分科会も開催！

分科会A

子どもの仲間関係を土台にした  
話し合いと保育者の役割とは  
～絵本、劇についての話し合いから～

分科会B

乳児の思いを汲み取る、について考える

分科会C

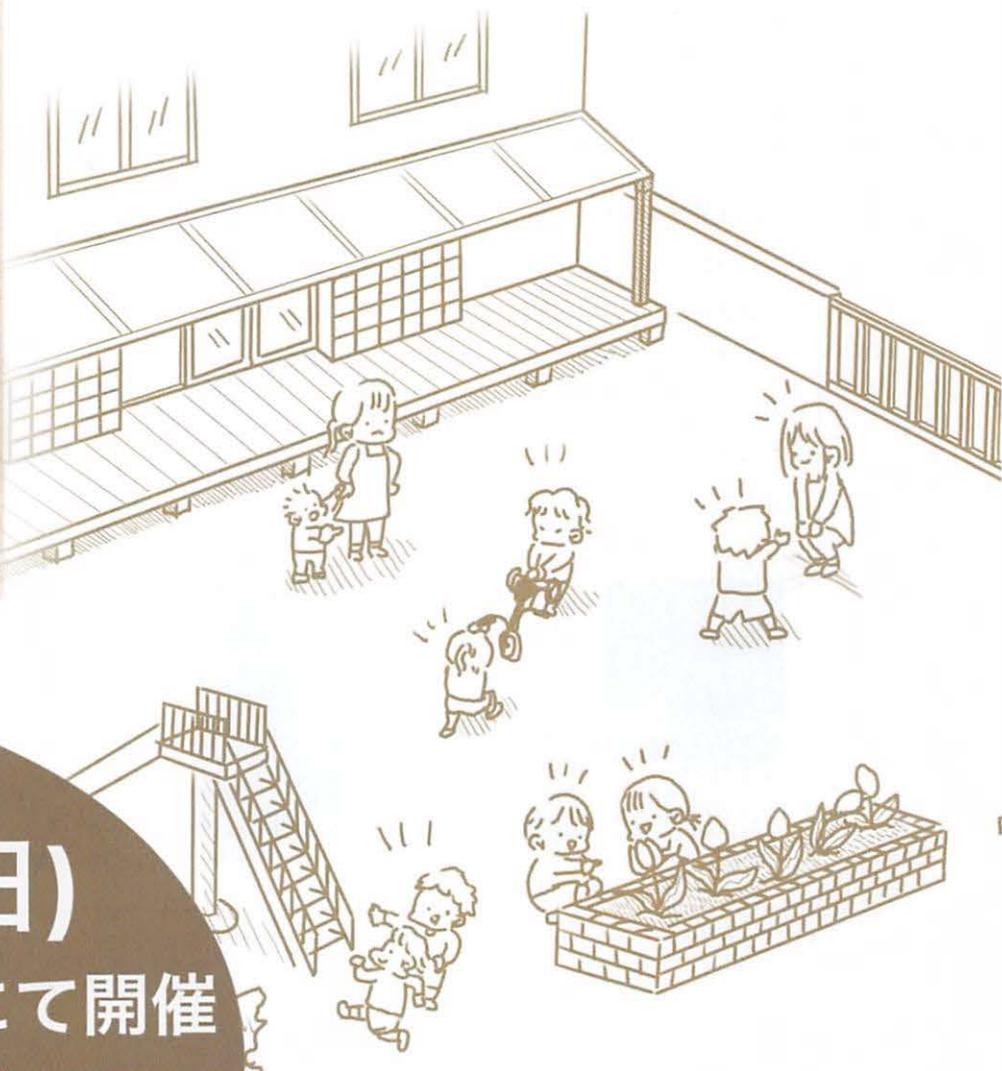
そいつの気持ちなんてどうでもいい！

俺が話してんの！

～荒れる子どもの本当の気持ちと向き合うこととは～

全体講座や分科会の詳しい内容、参加費や申し込み方法などにつきましては中をご覧ください

ルポライター  
講師 石井 光太さん



2023年

4月16日(日)

11:00～zoomにて開催

## 全体講座案内

少年犯罪や虐待をはじめ、困難を抱える人たちを数多く取材し、多数の著書を発行してきている石井光太さん。

その取材の中で共通している一つとして、「感じていることを言葉にできない」、「言葉で考えられない」人達が顕著に多く見られたということでした。いわば言葉が奪われていて、自分が何を思っているのか、人にどう伝えたらいいかわからない。例えば友人がしたこと、されたことに対して、「うざい」と言ってしまうと物事は悪い方向にしか行かない。でも、そこで「なぜ、彼はそうしたんだろう」とか、「私はどうするべきだったんだろう」と言葉で思考すれば、問題を解決して先に進むことができる。つまり言葉の有無というものがその人の生きづらさや、生きやすさを大いに左右するのだと。

今、保育現場、教育現場などでも子どもたちの言葉の乱れや自分の思いを表現することに難しさを抱える子が増えています。石井さんの著書「ルポ 誰が国語力を殺すのか」の中では、『ごんぎつね』の、大きな鍋の中で何かが煮えているという描写を、「母の死体を煮ている」と誤読する小学生の事例や、「グリグリ」「パー」「ガッ」などのオノマトペでしか自分の罪を説明できない少年院の少年たちの事例が紹介され、それは読み手に大きな衝撃を与えました。

乳幼児期の子どもたちに関わる保育者やその後の子どもたちに関わる教育者達は、石井さんの話を聞くことで、自分たちが今なにをすべきなのか、何を改めて大切にしていけるべきなのか、学びや気づきにつながるものが多くあると思います。ぜひ、皆さんで話しを伺いながら、言葉や表現がいかに重要なことであるのか等、たくさん考え合い、語り合いたいです。

### ルポライター石井光太さん

1977（昭和52）年、東京生まれ。作家、ノンフィクション作家。

国内外の文化、歴史、医療などをテーマに取材、執筆活動を行っています。2011年の東日本大震災で被災した岩手県釜石市の遺体安置所を題材としたルポタージュ『遺体-震災、津波の果てに-』は2013年に西田敏行さん主演で映画化もされています。

著書の中には少年犯罪や虐待、子どもの国語力など現代における子どもの実像に迫るようなテーマを扱ったものも多くあり、2021年「こどもホスピスの奇跡」では新潮ドキュメント賞（現代社会と深く切り結び文学的にも良質と認められたものに贈られる賞）も受賞されています。



### 主な著書

# 分科会案内

## 分科会 A

### 「子どもの仲間関係を土台にした話し合いと保育者の役割とは～絵本、劇についての話し合いから考える～」

提案者：神田朋実（平塚幼稚園） 運営委員：田代康子（東京保問研）

ある日、4歳児クラスで平和をテーマにした絵本を読み聞かせした時、保育者が考えていた以上に子どもたちから色々な言葉が出てきました。中には「その感じ方どうなんだろう？」と思うこともあり、子どもの言葉を保育者はどう受け止め、どう返すべきか、一人の大人としての価値観が問われるなど思う場面がありました。

また、保育の中で意図的に話し合いの機会をつくっている中で、話し合いの結果だけではなく、その過程をどう見ていけるとよいのか、5歳児の劇の場面決めの記録、事例から考えてみたいと思います。「絶対にへびの劇をやりたい」と主張するれん君にまわりの子もどうしようかと悩み、一緒に考えはじめる姿がありました。そしてれん君の譲れない本当の気持ち(理由)がみんなに伝わった時、物事が一気に動き始めました。話し合うことで築かれていくものとは何なのか、子どもの話し合いを支える保育者の役割とは何なのか。皆さんと考え合えたらと思います。

## 分科会 B

### 「乳児の思いを汲み取る、について考える」

提案者：近紀子（鳩の森保育園） 運営委員：中塚良子（松山東雲短期大学）

乳児部会では、さまざまな事例を語り合う中で、一つのワードについて考えあったり、意味を考えたりすることが多くありました。

言葉で十分に表現できない乳児に対して、どんな言葉を語りかけるのか、その言葉選びは、子どもの姿をどう読み取るか、思いをどう汲み取るかによって大きく変わるけれど、読み取った、汲み取ったと思っていることは、子どもから見たら果たして合っているのかな。

また、『思いを代弁する』『子どもに寄り添う』『子どもの要求に応える』という言葉をよく使うけれど、安易に使ってしまっているのかもしれない。「噛みつく」ことを「がぶする」など、いわゆる幼児語をよく使うことが多いけれど、どうして「噛みつく」と言わないのかな…。

4つの事例を通して、どこかで『当たり前』のようにしていることや使っている言葉について、皆さんで考えあい、語り合う中で、『子どもの思いを汲み取る』ことについて深められたらと思います。

## 分科会 C

### 「そいつの気持ちなんかどうでもいい！俺が話してんの！～荒れる子どもの本当の気持ちと向き合うこととは～」

提案者：高見亮平（東京保問研） 運営委員：五十嵐元子（帝京短期大学）

年長クラスのある男の子。どんな活動にも意欲的で、あそびの中ではもっとこうした方がおもしろい、ここを変えた方が楽しくなるじゃん等、積極的に提案をする姿がよくみられ、話し合いでも正しいこと、そうではないことをよく理解した発言をし、想像力も豊かです。

しかし、自分が瞬間的にやりたいと思ったことは良い悪いという判断をこえてやらずにはいられない、友達や保育者との関係では自分が言ったこと、したいことが通りそうにないと感じると、なりふり構わず暴言を使い、つかみかかり、手も足も出しながら自分を通そうとします。ここまでして相手を受け入れられない彼の背景には何があるんだろう、この子の本当の気持ちは何なんだろうと、保育者は園生活、家庭生活も含めて彼を理解しようと模索し、様々な関わりを試みていきました。この分科会では、様々な事例から「本当のその子の気持ち」をどう理解し、関わり合っていくことが私たちに求められているのか、子どもに寄り添うとか主体性を尊重とか、簡単なことじゃない！だからこそ、皆さんと一緒に悩み考え合えればと思います。

## 日時・参加費について

開催日時	2023年4月16日(日)
スケジュール	11:00～ 石井光太さんによる全体講座 12:30～ 休憩(全体講座のみ視聴の方はここで終了となります) 13:30～ 分科会 16:00～ 終了予定
参加費	全体講座のみ視聴の場合 1500円 全体講座+分科会の場合 2000円

## 申し込み方法について

### インターネットによる申し込み

#### 1、申し込み URL に必要事項を記入

団場で参加される場合でも、1人ずつお申し込み下さい

↓

#### 2、自動返信メールを受け取る

申し込み情報、お振込先口座番号を確認して下さい

↓

#### 3、お振込

4/1～4/16までの間に必ず郵便振替での振り込みをお願いします

↓

#### 4、後日、メールで送られてきた URL から参加

※分科会資料も後日メールにてお送りいたします

開始時間 30分前から入室可能です

### QRコード・URL

どちらでも申し込みフォームに移動できます

<https://bit.ly/3WCkq2B>



また、全国保問研ホームページの「お知らせ」からも申し込みができます。

自動返信メールで URL 等が来ない場合は、迷惑フォルダの確認等をして頂ききていない場合は

[ktanaka@tmu.ac.jp](mailto:ktanaka@tmu.ac.jp) までご連絡ください。

